

<<東北魂>>を鼓舞する  
電子新聞

発行所 株式会社遊無有

〒207-0005  
東京都東大和市高木3-315-1-2-2  
http://www.yumuyu.com/  
e-mail:yumuyu@vj8.so-net.ne.jp

# 東北復興

Rising up, TOHOKU!

2014年(平成26年)4月16日 水曜日

無料

## 第23号

毎月発行

創刊2014年(平成26年)4月16日 水曜日



見渡すかぎり広がる荒れ野

### 3年過ぎた閉上(ゆりあげ)はどうなったか？

宮城県名取市閉上地区の2014・3・21のいま  
復旧・復興が進まないのは被災地住民の合意問題  
だけのせいなのか？ すぐ近くのほぼ完全に復興した  
仙台空港との格差をどう考えたらいいのか？

#### 吹雪のち晴れ

閉上取材は3月21日に敢行した。東北新幹線で11時すぎに仙台駅に到着すると外は吹雪だった。東京を出るときは快晴だったので、仙台も晴れだろうと勝手に思い込み、車外の景色を見ていなかったのが驚いた。その日は仙台市の南に隣接する名取市閉上(ゆりあげ)地区および近隣地区、それと、震災時に津波に吞まれた仙台空港を取材する予定であり、たくさんの写真を撮る予定だったが、これでは吹雪の間からわずかに見える光景しか望めないのがっかりしていた。

が止み、写真は撮影のときには、すっかり晴れてきた。幸運に感謝した。



工専用クレーンが林立する閉上港遠景



復興工事中の閉上港



着手したばかりの護岸工事

#### 3年目の閉上(ゆりあげ)

東北大震災発生から3年経過後の被災地の現状を、現地に直接出向いて確認するために選定したのが、当新聞の第14号でも取り上げた宮城県名取市閉上(ゆりあげ)地区だった。

ここは、震災発生前には約5600名の住人がいたが、約800名が亡くなられた。

数ある沿岸被災地のなかで、前回のこの地区を取り上げたのは、復興計画に関する住民合意形成の困難さに注目したからであった。

その生々しい状況は、昨



供えられた花



再建された「閉上港神社」と「富主姫神社」

年の6月28日に放映されたNHKスペシャル番組「津波にのまれた町・再起へ密着800日」、副題に「あせりと怒号の激論 住民合意で迷走」というドキュメンタリーTV番組でよく分かった。

名取市長、家族を亡くしてまだ遺体が見つかっていない遺族の男性、それと「ゆりあげ港朝市プロジェクト」のリーダーの三名を軸にして、行政の側、家族を失った遺族の側、まちの再生を願う民間プロジェクトの側の動き、またそれらを含む閉上地区の800日間の動きのなかで揺れ動く住民の動向・思いを捉えた番組であった。

そこがいまどうなっているのかを現地に赴き確認しないわけにはいかないと、この取材を決めたのだ。

#### 第三者の検証委員会の最終報告書案まとまる

また、この地区で多数の犠牲者を出した原因を調査

するため、第三者の検証委員会が設置された。その委員会が、この3月25日までに、市の防災体制に問題があったとの最終報告書案をまとめたようだ。

その報告のなかで特に残念に思うことは、防災行政無線の故障で避難を呼びかけられなかったことであり、委員会もそのことを取り上げているようである。

他にもさまざまな分析・調査が行われたようだ。4月30日には正式な報告書が提出されるとのことであり、それを待つて当時の状況と問題点をあらためて調べてみたいと思う。

#### 閉上港―彼岸の墓参り

現在、閉上地区に行くには自家用車か、タクシールンタカーしかない。バス便は乗客数減少で廃止になったようだ。日曜日だけは、朝市へのシャトルバスが出

ているようだが、取材当日は金曜日であった。そこで、前もって予約していたレンタカーで、当初予定した3時間ほどの取材に出席することにした。

最初は閉上港に行った。最初は閉上港に行った。レンタカーを借りた「杜せきのした駅」近辺は、津波被害もなかったせいで、普通の街並みが展開するが、閉上港近くになると様相が一変した。

ガレキはほぼ取り除いてあるが、住居跡、水産加工場跡と思われるむき出しの土台だらけの荒地が一面に広がる。アスファルト道路は、あちこちに穴が開き走れるところがとても狭い。工事のためのダンプカーと何度かすれ違おうが、ダンプカーが優先だ。

港に近づくにつれ、一面の荒れ野のあちこちに犠牲者を弔う花が供えられている。約1メートル角のむき



関上港神社から関上港を望む



放置された寺

出しのコンクリートブロックがたくさん集まっている場所にも供えられていた。最初、そこがかって墓地であり、むき出しになっていたコンクリートブロックが遺骨を収容する納骨棺とは気がつかなかった。きつと、

遺骨も流されているに違いないとあらためて思う。遺骨まで流されたことに驚き、お供えの花のあまりの数の多さを前にしてがく然とした。港近くは、一面の平地がどこまでも広がっており、



おそらく遺骨も流されたままの墓場



お休みだった有名な「ゆりあげ港朝市」

津波はさしたる抵抗もなく、そこにあった住宅や工場を呑み込み、破壊していったことを想像した。一方所だけ、6メートルほどの小高い場所があった。日和山という場所、かつて関上湊神社があった

が、やはりここも津波で流され、震災後に再建された。そこから周囲を見渡すと、津波の被害が一望できる。言葉が出ない。  
**ゆりあげ港朝市**  
朝市は毎週日曜日の開催

で、取材当日は休みであった。それでも開いているのではないかと、ひっきりなしに自家用車が訪れていた。開催日はさぞぎやかなのだらうと思った。しかし、朝市の周辺は一転、何も無い一面の荒地である。また朝市のある場所は街からかなり離れているので、遠方からの訪問客が継続して訪れてくることを願うのみである。同時に、この朝市を拠点に、関上港近辺が復興するまでには大変な努力が必要であると感じた。

朝市が日曜日しか開いていないと聞いてがっかりしていたところ、「杜せきのした駅」から車で数分のところに、復興市があると聞いたので、そこにも行ってみたい。金曜日で閑散としていた。

### 仙台市若林区藤塚

関上の状況もかなりひどいが、隣接する仙台市若林区はさらに復旧していません。聞いたので、そこにも行ってみたい。

確かに何も無い。関上港と異なるのは、草がぼうぼうと生い茂っているために、荒地が隠されていることくらいである。海岸に近づくと、津波で倒された木々が3年前そのままに横たわっている。近くでは、たくさん倒れた墓石に囲まれた墓地を、お彼岸も近いのでお参りする数組の家族に出会った。墓を撮影するのは気が

### 仙台空港

引けたが、あまりにも衝撃的な光景でありシャッターを押した。仙台空港にも足を伸ばした。滑走路がすべて津波に呑まれた映像が記憶に深く刻み込まれている。ここは



津波に破壊された街灯の鉄製支柱



倒壊した墓石と墓参りの人々—隣接の仙台市若葉区

どうして見たかった。空港建物内部には入らず、滑走路側近くの川べりを数百メートル歩いたら、滑走路が見えた。もう完全に復旧している。津波に破壊された形跡が消えていた。一方で、周辺の復旧はまだだめであり、交通インフ



太平洋からの荒波につい津波を連想してしまう



津波で枯れた松、倒れた松

ラ優先の姿勢がはっきりしていた。住宅復旧とは大きな違いである。3年経ってもその差は埋まらないどころか、ますます格差がついている印象だ。この仙台空港の復興の早さを見ると、つい関上地区の復興遅れと対比してみたくなる。関上の住宅高台移転等に関する住民合意がうまくいかないために復興が遅れているというのが定説だが、遅れている理由はほんとうにそれだけなのだろうかという疑念が湧いてくるのを抑えられない。

### 閉上復興で 再度検討すべき課題

① 閉上港を今後も水産業拠点として活用するか、しないのかを明確に決断すべき。復興計画の基本はそこである。

② 被災した土地すべての買上げは広すぎてむずかしい、結果、部分的



復旧した仙台空港隣接の未復旧の地域

③ 買上げも困難との住民合意を優先すべき(線引きの住民合意不能) 立地状況から津波の完全防衛はむずかしい。



当時津波に吞まれ、現在ほぼ完全に復旧した仙台空港

④ 高い防潮堤より、他の被災地で応急避難場所として有効だった頑丈な中層公共建物を多数建設してはどうか。

⑤ 高台移転は非現実的。むしろ中層住宅用建物を共同で元の住居近く

に建設する方が有効ではないか。

最後に、上記諸点を含め、閉上被災住民主導で、再度の住民合意に向け努力しない場合の結果がどんなものになるのか、もう一度考えてみる必要があるのではないかと言いたいのである。



「閉上さいかい市場」の店舗群



朝市とは別の「閉上さいかい市場」看板

### 第二回 とにかく東北を語る会

3/21開催、参加者9名、話題はあちこちで他方、興味深く、さらに掘り下げが必要な継続テーマの可能性あるネタも出現してきた!

次回は5/25(日)、15:00から、星港夜にて



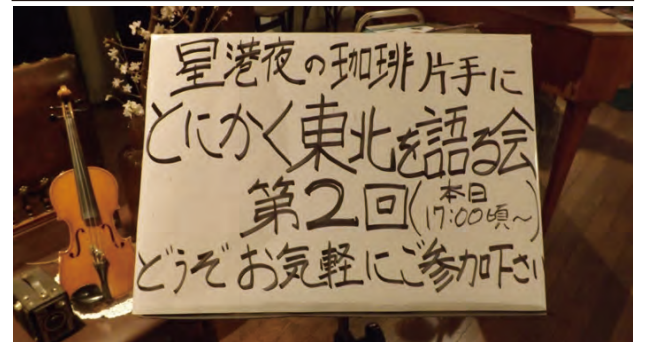
ご参加いただいた面々

り、遠野と映画に深い関心のある「げんさん」(当新聞の常連寄稿者でもある)、星港夜のマスター、そして筆者、第一回目に引き続いての参加組は、不動産鑑定士の佐藤氏、音楽家の塚

第二回目も9名参加 どの展開になるか多少の不安を抱えたままスタートした『とにかく東北を語る会』であるが、3/21に2回目を開催。参加者9名、1回目同様、東北に関していろいろ言いたいことがある人々が集まり、それぞれの思いを、分野を問わず

### 東北を愛する参加者達

当初からのメンバーであり、遠野と映画に深い関心のある「げんさん」(当新聞の常連寄稿者でもある)、星港夜のマスター、そして筆者、第一回目に引き続いての参加組は、不動産鑑定士の佐藤氏、音楽家の塚



第二回【とにかく東北を語る会】の手書き看板

### 例によって話題は拡散

簡単な自己紹介の後、テーマを決めないまま、いきなりの「東北トーク」がスタートした。すべてを列挙するのはむずかしいが、どんな内容が出現したのか、その一端を紹介する。

そもそも東北とはなんだろうとの問いかけ、福島県の謎の宗教遺跡「霊山寺」、東北の反原発運動、沿岸被災地の郷土芸能復活や住宅の高台移転に伴う地質調査から偶然古代遺跡が出現したこと、福島の現況に関する情報交換、教えられてきた日本の歴史・東北の歴史の定説への疑問、青森にある「日本中央の碑」、日本という名称、東北は6県である必要はない、東北という名称はそのままいいのか、岡本太郎と縄文、縄文の漆工芸、イングランドとアイランド・ケルト、修験道山伏神楽、沖縄ウタキ、文字のない縄文と歌の沖縄、マヤ文明と文字、弥生人と縄文人、米作導入と人口大逆転、弥生人と縄文人の混血、縄文人ルーツ、南タミ

ル語と日本語の共通点、タミル人と日本人、三内丸山遺跡、1万年も続いた縄文、坂上田村麻呂、アテルイとその当時の海外貿易、伊勢神宮の秘密、アマテラスか産土神か、アラハバキ神、富山の縄文人骨発見、前方後円墳北限、などなど。

### 継続掘り下げテーマ出現

今回、特に興味を引いたテーマがふたつある。ひとつは、福島県伊達市にある「霊山寺遺跡」である。ここは古代からの宗教遺跡であるのだが、本格的な発掘作業も実施されておらず、その規模・歴史はなぞのままである。この会で遺跡訪問を実施できれば幸いだ。次回もこの話題を提示しようと思

### 東北再興・ビジョン検討

言葉では、復興はインフラだけではないというが、その中身は何かと問われると、答えに窮するだろう。そのためには、一見復興とは方向性が異なるかもしれないが、東北の歴史発掘・東北人による事業発掘活動・東北文化掘り起し・東北の祭の掘り起し・東北文化の世界発信・などが大事なのではないか。そして何より東北の誇りと自信の復活こそ、復興になくてはならないのではないだろうか。

### 第3回 とにかく東北を語る会(予告)

#### 日時

2014年5月25日(日) 15:00から

#### 場所

純喫茶 星港夜-シンガポールナイト- 千9800011 宮城県仙台市青葉区上杉1-12-1 電話番号022-222-2926

#### 参加費用等

参加費無料(ただし自分の飲んだ飲み物代はご負担ください) 参加時間、退出時間自由

# そうだ、桜を見に福島へ行こう

## 東北最大の桜の名所・福島県

今年も桜のシーズンがやってきた。東北でも桜が早く咲く福島県いわき市では4月2日、ソメイヨシノが開花し、桜前線が東北に到達した。

聞くところによると、桜前線の速度はおよそ時速0.7kmとのことである。東北の最南端である福島県いわき市の勿来の関から、東北の最北端である青森県大間町の大間崎までは直線距離で約520kmであるので、時速0.7kmで北上すると約31日掛かる計算になる。従って、桜前線はおよそ1ヶ月かけて東北を北上し、だいたい5月のゴールデンウィーク期間中に津軽海峡を渡ることになるわけである。ちなみに、いわき市の標本木は東日本大震災時に津波を被ったが、その塩害にも負けずに今年も花を咲かせたそうである。

日本中がこれだけ、いつ咲くか、いつ咲くかど気にする花は、桜を置いて他にない。唯一対抗できるとすれば、花ではないが秋の紅葉であろうか。そう言えば、どちらも「前線」の動きに注目が集まる。ともあれ、それだけ日本人にとって桜は特別な意味を持った花で、桜の樹の下で花見をするのはあつても、チューリップの花を見ながら花見をすることはまずない。

それだけに、桜の名所と呼ばれる場所、あるいは桜の名木と呼ばれる樹は、日本中至る所にある。ここ東北に関してもそうである。とりわけ有名なのは「東北桜三大名所」と呼ばれる弘前城(青森県弘前市)、角館(秋田県仙北市)、北上展勝地(岩手県北上市)の桜であるが、それ以外にも東北には各地に桜の名所名木が存在する。

この時期、ウェブ上でも桜の名所を紹介したサイト

が多数存在する。それらのサイトで東北の桜の名所を調べてみると、あることが分かる。例えば、あるウェブサイトの「桜前線とれたて便2014」(<http://www.turubu.com/season/spring/sakura/index.aspx>)では、東北六県の桜の名所の数は、青森10、岩手11、宮城9、秋田12、山形14、福島36である。Walker Plusの「全国お花見1000景」(<http://hanami.walkerplus.com/>)では、青森11、岩手26、宮城20、秋田21、山形25、福島47である。駅街ガイド.jpの「お花見ガイド2014」(<http://xn--8gijaj1j0176by.jp/>)では、青森21、岩手24、宮城23、秋田25、山形27、福島62である。

## 執筆者紹介

大友浩平

(おおともこうへい)

奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。

「東北ブログ」

<http://blog.livedoor.jp/anagmas/>



Facebook  
<https://www.facebook.com/kouhei.ohtomo>

に次ぐものとなっているようである。

## 福島の桜は咲き誇る

地元福島県でも、こうした状況をよく理解しているであろう。福島県内の桜の名所を紹介したサイトは実に充実している。ふくしまの旅(福島県観光情報サイト)の「ふくしまさくらスポット」(<http://www.fukushima.jp/spot/sakura.php>)には実に、195ヶ所の桜の名所が紹介されている。福島県のサイト内にある「さくら回廊ふくしま」(<http://www.pref.fukushima.jp/machi/fukushima-all/sakura.html>)も、地域ごとに桜の名所名木を詳しく紹介しており、見応えがある。

そうした中で、東北最大の桜の名所、福島を代表する

「お花見ガイド2014」(<http://xn--8gijaj1j0176by.jp/>)では、青森21、岩手24、宮城23、秋田25、山形27、福島62である。

お気づきのように、先に紹介した「東北桜三大名所」にこそ入っていないものの、福島の桜の名所の数は、東北の他の5県と比べても突出して多いのである。「東北・夢の桜街道〜復興への祈りを捧げる桜の札所・八十八カ所巡り」(<http://www.tohoku-sakurakaido.jp/index.html>)では、東北の88ヶ所の桜の名所(札所)を挙げているが、ここでも福島の桜の札所は全88ヶ所のうち21ヶ所に上る。ちなみに、福島におけるこの桜の名所の数の多さは全国的に見ても、概ね東京、京都

る桜と言え、何と云っても三春町の「滝桜」であろう。日本三大桜の一つに数えられる、樹齢1000年以上とされる枝垂れ桜の巨木である。無数に咲いた花が、まさに滝のように流れ落ちるように見える。「滝桜」と呼ばれるようになったのもむべなるかなという印象だが、実は滝という地名の場所にある桜だから滝桜なのだそうである。三春町のサイト内には「滝桜ライブカメラ」(<http://www.town.mihanu.fukushima.jp/soshiki/7/webcamera.html>)があり、滝桜の現在の様子をリアルタイムに確認できる。開花している時期にはアクセスが集中するそうである。

福島県内には、この滝桜以外にも大玉村の馬場桜や猪苗代町にある会津五桜

の一つに数えられる大鹿桜など、樹齢1000年を超えると思われる桜の古木がある。また、樹齢500年以上と言われる桜も県内各地に点在している。福島の人たちがいかに古くから桜を愛でてきたかを如実に示していると言える。他にも、小野町にある夏井川の千本桜や会津若松市の鶴ヶ城公園の桜、そして東北の「桃源郷」として知られる福島市の花見山、下郷町の戸赤集落の山桜などは実に見事である。

郡山観光交通のサイト(<http://yamaguchi.gr.co.jp/>)内には「平成26年春場所枝垂れ桜花番付表」がある。東西横綱2本(東の正横綱はもちろん滝桜である)以下、大関6本、関脇6本、小結6本、前頭8本の、実に100本の枝垂れ桜が大相撲の番付表になぞらえて紹介されている。他にも枝垂れ桜を除く「福島の一本桜best30」と、「福島のお花見名所best30」が挙げられており、その充実ぶりが窺える。



滝桜 (三春町観光協会のサイトより)

## 桜の花の真実の姿

桜の名所ということでは、返す返すも残念だったことがある。2km以上に亘って道の両側に植えられた桜のトンネルが続く富岡町の夜の森(よのもり)公園近くの桜並木である。私も大好きで何度も足を運んだこの桜の名所は、東日本大震災による福島第一原

発の事故によって今も帰宅困難区域となっており、震災前に富岡町に住んでいた人が一時立ち入りする以外認められていない。

従って、今まで紹介した各サイトでも、この見事な夜の森公園の桜並木は取り上げられていないのである。いつかまた大手を振って足を運べる時が来ることを切に願う。

富岡町のサイトでは、震災後の2012年に撮影した夜の森公園の桜が、写真と動画で紹介されている(<http://www.tomioka-town.jp/guidance/sakura/00053.html>)。また、マウス操作によって360度のパノラマ写真で富岡町の桜を鑑賞できるページもある(<http://www.tomioka-town.jp/sakura360.html>)。これらの写真、動画は実に美しいが、この美しい桜が見られない現実を思うと、本当にやるせない、悲しい気持ちになる。

昨年のNHK大河ドラマ「八重の桜」は、幕末から明治という激動の時代を生きた抜いた新島八重の生涯を描いたドラマだったが、その最終回に会津藩の家老だ

つた西郷頼母と新島八重との間で、桜の花を愛でながら、次のようなやり取りがある。

西郷頼母「わしはな、新政府がなじよな国つくんのの見届けんべと、生き抜いてきた。…んだげんじよ、戊辰以来、わしの眼に焼き付いたのは、なんほ苦しい時でも、懸命に生きようとする人の姿。笑おうとする人の健気さ。そればかりが俺の心を、胸を揺さぶんだ」

新島八重「花は、散らす風を恨まねえ。…ただ、一生懸命に咲いてる」

## 夜の森の桜並木のトンネル (富岡町のサイトより)



夜の森の桜並木のトンネル (富岡町のサイトより)

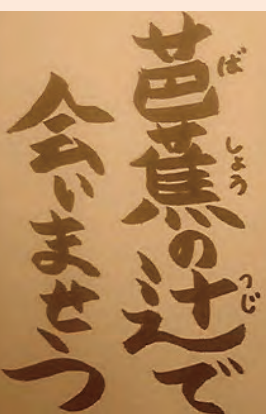
番訴えたかったことは、まさにここにあったのだろうと思う。

桜は、その散り際の潔さから、かつては戦場で命を捨てる兵士の姿になぞらえられた。しかし、そうした桜の姿は、桜の一面のみを見ているに過ぎなかったのだと思う。西郷頼母の言う通り、桜は、花を散らせて終わり、では決してない。今年無慈悲な風雨にさらされてその花を散らせても、翌年再びまた見事に花を咲かせるのである。それこそが、桜の花の真実の姿である。そして、だからこそ、桜は日本人にとって特別な花であり続けたのだらうとも思う。夜の森公園の桜も、残念なことに誰も見る人はいないにしろ、きつと今年もまた見事に咲くに違いない。

折しも、ふくしまブレDC「福が満開、福のしま。」と銘打った福島県観光キャンペーン特別企画が実施されている。その中では、福島県205の花の名所を巡る「花の王国ふくしまキビタンフラワースタンプリ」も実施されている(<http://hana-fukushima.jp/>)。サイトからは公式ガイドブックもダウンロードできるが、ガイドブックの中だけでも春爛漫の花盛りで、実物はさぞやと思わせられる。

今年はずいぶん、福島で咲き誇る桜を見届けに行こうと思う。

連載  
むかしばなし



第十一話  
麦湯と珈琲の  
ひと時

「影武者・ですって。」  
呆気にとられる長里国八郎に、泰衡は言う。

「兄は死ぬ気だが、そうはさせぬ。烏鬼森の太郎にかかれば、欺かれぬ者はおらんべ。」

「烏鬼森とは・確か太白山の事では。」

仙台の南から西方に見える、奇妙に目立つ山。星が落ちてきた山とか、巨人がいたとか、伝説が多い。

「太郎殿とは一体・。」  
泰衡、腕を組み、白い歯を見せてししし、と笑う。

「我が家臣にして大天狗の



奥羽越後現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、仙台に移住。市内のケルト音楽サークルに所属し、あちこち出だし演奏する。フィドル(ヴァイオリン)担当。

右腕、大河兼任の事よ。」

長里の目が驚愕に見開かれた。大河兼任といえは、泰衡が滅ぼされた後、秋田北部で拳兵するはずの男・どういふ事なのか。

「はっ！まだ天狗などと・気狂い棟梁めが。」

縄でぐるぐる巻きにされた山浦琴洋、袋叩きになつた惨状で尚もわめき散らす。

「どうせこの陣は放棄するのだから。あの坊主のいう石とやらをちやっちやと置いて昭和へ帰るべよ。」

「んだっけ・だども手元さ石はねえもんだし。」

そういう祝儀に、泰衡が石とは何か、と尋問すると、代わって長里が答える。

「あるお方が造成されたという、特殊な鉱石をこの周囲六地点に配置する事で、私どもが元の時代へ還るための結界を張るのです。」

泰衡、しばし思案する。「その、六地点の中さ、もしやあれが入っているんであんなめえが。」

そう言って指すのは、西の青葉山の方である。山はずっと見えず、何か霧がかかったような状態である。長里が頷くと、

「では、結界は難しいであらうな。彼の崖の対岸、別の強力な結界が、大天狗によつて張られている。それを外さぬ限り、力が打ち消しあつて用を成すめえ。」と、泰衡。長里、慌てて

老住職が出迎える。「急病人が出た。しばし介抱させて下され。」

泰衡以下、八人が堂内へ通される。風通しの良い部屋に布団が敷かれ、若を横たえたと医師らしき僧が入ってくる。泰衡は襖の向こうで、住職と話している。

「大軍が押し寄せる。寺の皆様も避難なされよ。」

「ここは結界の最前線です。何人かがここを守る所存でおります。」

「無茶はならねえ。トヨさんには任せなされ。」

男達は広い居間へ通され、飲み物を出された。熱い麦の香りがする。

「先程お話にあつた、トヨさんというお方の事ですか。」

長里、尋ねる。「ああ、崖の上のトヨさんだべ。」

泰衡の答えに長里と祝魚、目を丸くする。「大天狗と広瀬川を挟んで

向かい合つて住んでいる」「御婦人であられるか。」

「婆様だ。相当の御歳でな。」

泰衡、麦湯をすすり、深く息を吐く。

「だが、あれは怖ろしき巫女よ。祖父・基衡の代より平泉の発展にも関わつてい



「いかん、森が燃えてしまふ。狗殿、お鎮まり下され。お鎮まり下され。」

木喜善、今純三、そしてヤエトは頭を地に伏してやり過ぎすが、独り、サーカスの芸人という壇家老人のみが、その小柄な身体を立たせたまま、頭上を暴れまわる炎を見上げていた。腰を曲げ、手を目上にかざして眩しうにしながら、何やら口を尖らせて犬のようには吠えている。かと思ふと、いきなり駆け出し、炎の後を追いかけるように、芭蕉の周りを回り始めた。

燃え広がった炎を吸い込み集め始めたが、勢いは戻らず、やがて脚も折れて、巨大な獣の姿が崩壊した。「垂炭ですな。垂炭の狗なのですな。」

目の前に落ちてきた破片に顔を近づけ、賢治が言った。本体は最早動かず、既に火が燃っている状態だ。芭蕉と垂炭の塊を繋ぐ紐は、いつの間にか青か緑の色に変化している。「何とか・瓢箪に封じ込められたようですな。」

突然、垂炭の塊がぱくぱくと割れ、中から3人の男と、大寺、横野、柏が煤だらけになつて現れ、倒れ込んだ。芭蕉が尋ねる。「何という事ですか・。」

# シリーズ 遠野の自然 「遠野の春」 遠野 1000 景より



陽春の川

今年の冬は、全国的にとっても寒く、かつ雪が多かった。それが三月なかばごろまで続いた。なかには三月末まで続いた地域もあったようだ。

梅の枝も折れたり、咲いても雪に埋もれていたりして、春の訪れを実感する状態にはなかなか出来なかった。

梅の枝も折れたり、咲いても雪に埋もれていたりして、春の訪れを実感する状態にはなかなか出来なかった。



フクジュソウ開花



マンサク開花

遠野もご多分にもれず、三月中は積雪が多かったようだ。

凍りついているのは外の景色だけでなく、身体中が収縮して、冬の寒さをやり過ぎしていたのが、急に収縮が弱まり、柔軟性が回復し、身体の芯から思い切り伸びをしたくなる季節というものが春である。

芽が成長し、やがて雪が融けると頭をもたげてくる。すごい生命力である。

遠野でバツケとはフキノトウのことである。フキノトウは旬の食材としても知られている。なかでも天ぷら料理は有名である。

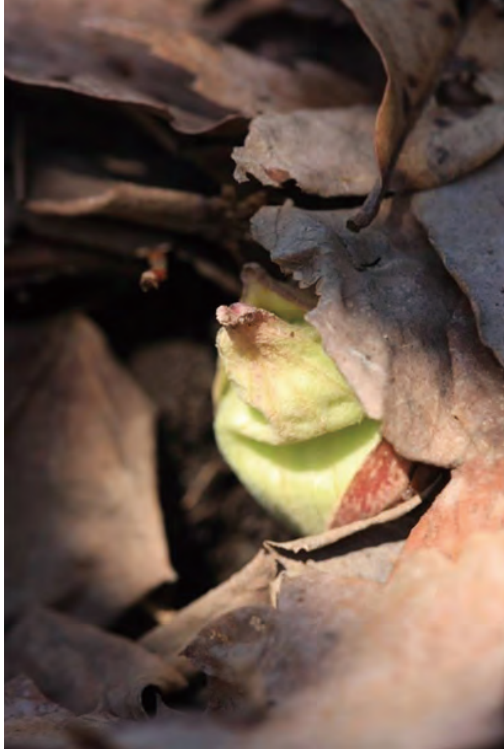
最後に釜石線走るSL 銀河である。撮り鉄たちになぎわっているようだ。

「3・11」から三年一月が経過した。あときも寒かった。雪が降っていた。

まずは雪融けの写真。小川の両側に積もった雪が春の日差しで融けはじめている。周囲の雪も融けはじめて、小川の流れを勢いづかせている。日差しも冬とはまったく異なり暖かそう



膨らむ モクレン



芽出たい バツケ (フキノトウ)



岩根橋 宮沢賢治の銀河鉄道のイメージ橋



芽出たい クロッカス

# 静岡県袋井市 尊永寺 から 愛知県豊田市 増福寺 へ (静岡県から少し戻りました)

遠州三山のひとつである尊永寺は御前崎の浜岡原発から20キロ圏内  
そのため福島への関心も高い

引越し先の増福寺(別名「風鈴寺」)には4月いっぱい逗留予定

MONKフォーラム代表 長谷川稔氏寄稿

## 笑い仏さん

### 福島への行脚

#### 第十三回



引越しをお手伝いいただいた内山田さんと笑い仏さん

東日本大震災から三年を迎えた三月十一日から三日経って、福島県を目指す「笑い仏」さんは、静岡県袋井市の尊永寺を離れ、少し西に戻って愛知県豊田市の増福寺にお引越しされました。

尊永寺は、遠州三山のひとつとして知られ、平日でも参拝客が絶えない名刹です。茶畑を抜けた高台にあり、本殿まではかなりの道のりとなり。出立の日

はまだ高いんですよ。芳名帳には、多くの方の名前が記されていました。本堂にありがたいことです。そして、ここ静岡県袋井市も、福島とは無縁ではないのです。内山田さんが話してくれました。

「参拝された方々も、『メッセージを書いておいたよ』と声をかけてくださって。静岡の人間にとって福島は遠いけれど、関心はま

みると、この名刹は確かに、原発から二〇キロ圏内に位置しています。二〇キロ圏内といえば、福島原発事故の際に、政府が「警戒地域」に指定し、強制退去を実施したエリアになります。加えて浜岡原発は、福島以上に、南海地震や東海地震の危険が叫ばれてきたところ。それだけに、「もしも大きな地震が起こったときは…」と、住民の関心が高いことを、今回知りました。

その震災、そして原発事故から三年が過ぎました。政府は、「そろそろ記憶も風化しただろう…」と言わんばかりに、原発再稼働の動きを急ぎます。浜岡原発もその一つです。

さて、高速道路を乗り継いで三河地方に向かいます。愛知県豊田市の矢作川(やはきがわ)に沿い、ぐねぐねした道をしばらく行けば、こぢんまりとした旅館街が現われます。そして、突如響き渡る妙なる音色…。風鈴です。これに関しては後述しますね。



引越し先の増福寺の佐藤住職ご夫妻と笑い仏さん

このお寺は、「風鈴寺」とも呼ばれ親しまれています。一〇年ほど前に、町おこしの一環で「何かできないか?」と話し合いが持たれたとき、「ここは風が吹くだけだからなあ…」と腕を組む人が多かったとか。それを逆手に取ったのがこの始まりです。

増福寺に行くには、名鉄・豊田市駅から「とよたおいでんバス」にて小渡(おど)で下車。所要時間は約六〇分です。お寄りの際には、お電話を入れてもらえれば確実です(電話0565・68・2615)。

「風が吹くなら、風鈴を飾ればいいじゃないか!」境内には、参拝客が奉納した風鈴が、涼しげな音色を奏でています。七月には「風鈴祭り」が行われ、大いに賑わうそうです。

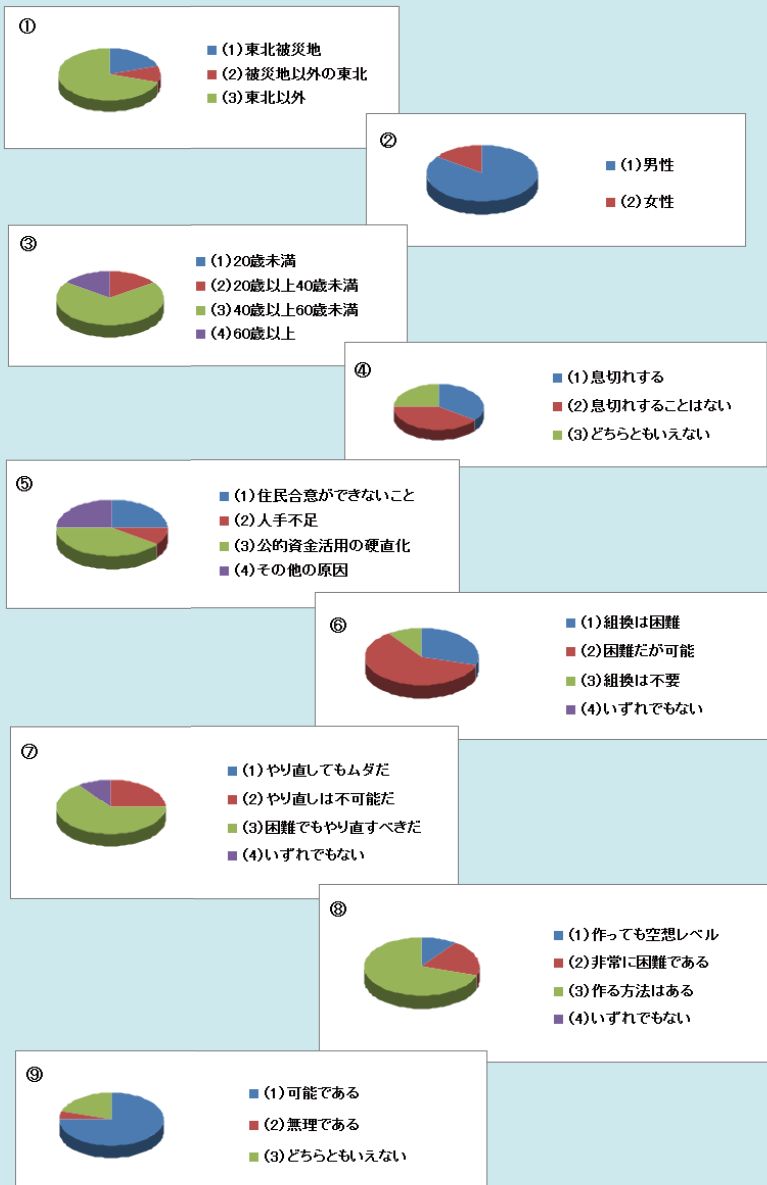
笑い仏さんは、暖かい佐藤住職夫妻にご面倒をおかけしながら、四月いっぱい逗留予定です。多くの方々に、お手を合わせていただけると幸いです。

(MONKフォーラム 長谷川 稔)

## 第22号 ネットアンケート集計結果

### 『3年目からの東北二段階復興論』について

No.	質問と選択肢	回答数
①	住所	
	(1) 東北被災地	4
	(2) 被災地以外の東北	2
	(3) 東北以外	14
②	性別	
	(1) 男性	17
	(2) 女性	3
③	年齢	
	(1) 20歳未満	0
	(2) 20歳以上40歳未満	3
	(3) 40歳以上60歳未満	14
	(4) 60歳以上	3
④	復興熱(3年目)で息切れするか	
	(1) 息切れする	7
	(2) 息切れすることはない	8
	(3) どちらともいえない	5
⑤	復興遅れの主因は何か?	
	(1) 住民合意ができないこと	5
	(2) 人手不足	2
	(3) 公的資金活用の硬直化	8
	(4) その他の原因	5
⑥	復興体制の大幅組換えは可能か?	
	(1) 組換えは困難	6
	(2) 困難だが可能	12
	(3) 組換えは不要	2
	(4) いずれでもない	0
⑦	被災地住民合意やり直しが可能か?	
	(1) やり直してもムダだ	0
	(2) やり直しは不可能だ	5
	(3) 困難でもやり直すべきだ	13
	(4) いずれでもない	2
⑧	東北復興プラン作成は可能か?	
	(1) 作っても空想レベル	2
	(2) 非常に困難である	4
	(3) 作る方法はある	14
	(4) いずれでもない	0
⑨	『3年目からの東北復興二段階復興論』は実現可能か?	
	(1) 可能である	15
	(2) 無理である	1
	(3) どちらともいえない	4



今回のテーマは「3年目からの東北二段階復興論」でした。3・11から3年が過ぎ、風化が懸念される昨今ですが、復興はむしろこれからであり、具体論を前号のTOP紙面でさまざま提言しましたが、それに関するアンケートでした。回答者は20名。

3年目が大きな節目と言われますが、「復興熱は3年目で息切れするか」は、見事に三分して、「息切れすることはない」が少しリードで40%、「息切れする」が35%、「どちらともいえない」が25%。「復興遅れの主因は何か?」は、「公的資金活用の硬直化」が40%、「住民合意ができないこと」と「その他」が同数の25%。いまさらかもしれませんが「復興体制の大幅組換えは可能か?」は「困難だが可能」が60%とリードし、「組換えは困難」は25%。「被災地住民合意やり直しが可能か?」は「困難でもやり直すべきだ」が65%、「やり直しは不可能だ」が25%。震災前から衰退していた東北を再興するための、実現可能なプラン作成は可能かどうかは、「作る方法はある」が70%、「非常に困難」が20%。最終的に「3年目からの東北復興二段階復興論」は実現可能か?は、「可能」が75%、「どちらともいえない」が20%となりました。

本格復興への希望が感じられ、心強く思いました。

**編集後記**

このところずっと体調不良である。加えて体調不良から発した精神的モヤモヤ状態にも陥っている。

まず、年明けの二度の大雪での雪かきで腰を痛めたのが最初。最初の雪は何とかなしたが、二度目、勤務先に降った1メートルの雪でぎっくり腰になった。そして寒さが苦手な筆者に寒さがずっと続いたのも効いた。冬は通常3カ月を限度に耐えているが、今年4カ月以上続いて、身体の硬直が続いた。それで身体がほぐれず、冬バジョンの体重も元に戻らない。結果、身体が重くて硬いのだ。(もともと重いのではないかとこの批判もあるが) あとはあわただしいこと。

最近、さまざまな案件が、未決状態のまま押し寄せてきている。身体と精神があまり充実していないせいで処理が迅速とはいえない。そのため、課題がどんどん蓄積してきていることもモヤモヤの一因である。

そういえば昨年還暦を迎えた。加齢による老化や、それに伴う精神的な不調だけでなく、周囲の総合的環境が大変化していることも影響しているであろう。

乗り越えなければならぬ。また記事に体調不良が影響してはならないと肝に銘じる現在だが、春が来たことで、もっと明るく行こうと思う次第である。

### 「東北を世界に！」プロジェクト募集

#### ・プロジェクト募集要領

- ① 東北の復興、活性化、再興を目的としたプロジェクト企画であれば、何でも可
- ② 応募資格は特に定めず、被災地、被災地以外の居住も問わず、国籍・年齢・性別を問わず
- ③ 企画書のようなものがあれば可---形式自由 (プロジェクト名、プロジェクト期間、目的、どうやって実現するかの手段、仲間などを明記していただきたいと思ひます)
- ④ ✕切はとくに設けません

### 「東北を世界に！」プロジェクト募集

#### ・連絡先/企画提出先

(郵送) 〒207-0005  
東京都東大和市高木3-315-1  
ホームタウン宮前2-2  
電子タブロイド新聞【東北復興】宛  
(メール) yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

- ・ご提案いただいた企画については、当新聞で責任をもって検討させていただいた上で、企画開始に向けてのしかるべき方法・手段をご提案するなり、企画実現のための仲間を募ってまいりたいと考えております。また、当新聞でご紹介させていただきたいと思ひます。(氏名公表か非公表かはご相談)

・たくさんのご提案をお待ちしています